
目覚め

あやひこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

目覚め

【コード】

N9681C

【作者名】

あやひこ

【あらすじ】

突然の娘からの電話。これは夢？それとも

(前書き)

これは架空のお話です。

「・・・あっ、おかーさん？あたし。拓海に今すぐ来てって伝えて。携帯も持って来てって言っておいて。」

ツーツーツー。

真夜中4時のいきなりの電話だった。

通常、こんな時間の電話は非常識だ。

だけど私はまさかと電話に出たのだ。

一瞬にして身体に電流が走る。

この声を聞いたのは何ヶ月ぶりだろうか。
突然の事に声も出ず、電話は一方的だった。

お父さんと拓海君、千尋を車に乗せ病院へ急ぐ。

皆、まさかといった感じでむしろ私がおかしくなったという眼差しで、だが、真実であってほしい。そんな気持ちで付いて来ている。

車内は静まり返り、車のライトが全く通行のない道に光りを当てていた。

日中走れば30分かかる道のりも今は15分もあれば病院に着いてしまう。
それほど通行がないのだ。まるで娘が早く来いと手招きするかのよう。
うに。

あの日もいつもとかわらない朝だった。

私の仕事に行く10分前に娘は千尋を連れ、仕事に出る。

「いつてきまーす！」

それが最後の言葉だった。

私が仕事に行こうと自宅をでると娘の車がエンジンをかけた状態で止まっていた。車の中で顔中涙でいっぱいの子尋が泣いている。

娘は、後部座席側でうつぶせに倒れていた。

チャイルドシートに千尋を乗せ、ドアを閉めた所で倒れたのだろう。

5

病院で医師に脳出血と診断された。
次いで延命について説明がなされ

『呼吸器』

というものを装着し、かろうじて生きている状態になった。

そんな状態で数カ月がすぎ、みんな疲れてきっていた。

私は仕事をやめ、千尋を保育園に送りながら娘に毎日会いに行った。お父さんは仕事帰りに娘に会いに来てはなにも言わず帰って行く。拓海君は仕事に行く前娘に会い、帰り道千尋を迎えたあとまた娘に会いに行っている。

私達の生活はガラリと変化した。

病院に付くと一目散に毎日乗っているエレベーターに乗り込み、病室へと急ぐ。

「お母さん、ただいま。」

私は大声を出して泣いた。びっくりして看護師がやってきた。娘も看護師をしている。気がついたらこっさりカフを抜いて、抜管。機械もこっさりオフ。

そして看護師がいなくなったナースステーションで電話をしたらし

い。

とんでもない娘だが
生きていてくれてありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9681c/>

目覚め

2011年1月25日03時42分発行